



しかはま自然観察会

# のらえもん

『 人も 自然も みんな友だち 』

2023 年度

No. 16

2024. 02. 17~18

## 第 16 回活動 土呂部の冬のごちそう

雪が少なく暖かい日差しの中、イタヤカエデの樹液採りにでかけました。

案内役の、日光茅ボッチの会代表飯村さんは、

「暖かいので、樹液はあまり期待出来ません」という。

それでも合計 80% の樹液を集めました。

木から水がどんどん出てくる様子は、霊が宿っているようだった。

1, 日 時：2024年2月17日～18日

2, 天 気：2日間とも快晴

気温・・・早朝-7℃ 10時頃7℃ 直射日光10℃

2, 場 所：栃木県日光市土呂部66

宿泊・・・民宿水芭蕉苑

3, 集 合：現地集合（車3台）

4, 参加者：総数9 内訳 大人 3

高校生 1 （8年振りに参加）

小学生 2

スタッフ 3

## 5, 活動の様子

○ 1日目は樹液とり

11時、水芭蕉苑前に全員集合。

早速、日光茅ボッチの会の方々のご案内で、イタヤカエデの生えている場所へ移動。

大きなイタヤカエデの前で、会代表の飯村さんが説明してくれた。

「今年は暖冬なので、樹液はあまり期待できません。1・2月の厳しい寒さの時

に、樹液を貯えるようです。水とメイプルウオーターの通り道はちがうようです。

一本の木から、少しだけいただくようにしています。穴を開ける場所は南側、樹

液を貯めるタンクは北側に置き雪を被せて冷やしておきます。だいたい2日間で

樹液を集め、1日半かけて煮つめます。そうして、始めは2, 1%の糖度だったものを60%までにして完成です。20ℓのタンク1本を煮つめても、20ccの量にしかありません。」

イタヤカエデにドリルで穴を開けると、木くずに混じって水がじわじわ出てきた。感動の一瞬だ。以前、ドリルで穴を開けるやいなや、水が水道のように出てきた光景を思い出す。その水を、寛太くんが口を開けて受け取っていたのだった。

翌日、赤い屋根の下で、大きな釜二つ並べて、湯気をどんどんたたせていた。この光景を見た段さんは、「昨日と、今日の様子をみると、メイプルシロップの価値がわかるね」と話してくれた。

夕食は、飯村さんを含めた10人だ。まるで家族のようで、暖かい空気が生まれてきた。ゼンマイにミズという山菜、ヤシオマスの刺身、イワナの塩焼き、天ぷら、さつま揚げの煮物、どれも心がこもっていて美味しい！大人は、ビールの後は日本酒の久保田。飲む程に話しがはずみ、親交が深まる。

#### ○ 2日目は里山でソリ遊び

ソリ4台を持って里山へ。雪は少なく、ザラメ状。まるで3月下旬の雪質だ。ところどころススキが顔を出している。見上げれば、雲一つ無い空。滑る程に体全体がほてって来る。

何回も何回も滑っては登りをくり返すかしょうくんにぶんけんくん。転んでも「楽しい！」と、ステキな顔をつくる。高校生の誠一くんは、スマホで動画を撮影している。大人は枯れ葉の上で大の字に寝そべり、里山の音を聞いている。

「何も無い」という里山。だが、ソリ滑りができ、雪を存分に楽しんでいる。ススキの葉に作られた氷の結晶は、花のように美しい。コナラの林の方から聞こえてくるキツツキの声。青い空に、飛行機雲が4本の絵を描いてくれた。鹿の足跡と楕円形の茶緑色のウンチ。展望台から見下ろせば、メイプルシロップを作り出してくれるイタヤカエデの木々が天空を目指している。前日訪れたキャンプ場では、真っ白い雪の上での楽しい昼食。

そして、民宿水芭蕉苑の暖かいおもてなしと、参加者同士のおだやかで暖かい心のこもった交流。たくさんの恵に包まれた里山だった。

#### 6, ふり返りの感想

- 木にあなをあけるのが たのしかった。

元郷小1年

- ごはんが おいしかった。

ゆきあそびが たのしかった。

かしざき小1年

- カエデの樹液とりがとても楽しく、原液（メイプルウォーター）はほんのり甘い水で、すんでいてとてもおいしかった。

山遊びでは、ソリ滑りがとても楽しかったです。

ソリ滑り すべるのへたで 大転倒

高校3年